

1

簿記の目的

① 簿記とは

企業では、商品の購入・販売、給料の支払いなど、様々な経営活動が行われている。

これらの経営活動を一定のルールに基づいて、分類・整理した上で帳簿に記入する技術が簿記である。

② 簿記の目的

日々の経営活動を帳簿に記録し、一定時点の財政状態と一定期間の経営成績を明らかにすることが簿記の目的である。

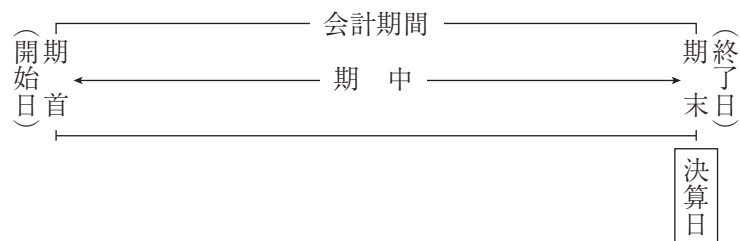
③ 財政状態・経営成績

財政状態は、貸借対照表という書類に示される。

経営成績は、損益計算書という書類に示される。

参 考 会計期間

財政状態や経営成績を明らかにするためには、計算の基礎となる期日や期間があいまいでは有用な資料を得ることができない。そこで人為的に一定の期間を定め、計算することとしている。その一定期間を会計期間といい、会計期間は通常1年である。また、会計期間は任意に定めることができる。



2

貸借対照表及び損益計算書

① 貸借対照表

貸借対照表には、資産、負債及び純資産が表示される。資産は、企業が調達した資金の運用形態（元手をどのように使ったか）を示すものであり、負債及び純資産は、資金の調達源泉（元手をどこから集めたか）を示すものである。

貸 借 対 照 表

××年×月×日現在

資 産	負 債
現 金	支 払 手 形
当 座 預 金	買 掛 金
売 掛 金	借 入 金
有 価 証 券	未 払 金
商 品	未 払 費 用
貯 蔵 品	預 り 金
前 払 費 用	社 債
建 物	退職給付引当金
機 械 装 置	
車 両	
備 品	
土 地	
投資有価証券	
関係会社株式	
	純 資 産
	資 本 金
	資 本 準 備 金
	利 益 準 備 金
	繰越利益剰余金

運用形態

調達源泉

一定時点の財政状態を示す

② 損益計算書

損益計算書には、収益と費用が表示され、さらにそれらの差し引きにより利益が表示される。収益は、企業の経営活動の結果としての成果を示すものであり、費用は、その成果を得るための努力を示すものである。そして、利益は、成果と努力を対比した儲けを示すものである。

損 益 計 算 書	
自××年×月×日 至××年×月×日	
費用 売上原価 給料手当 賞与手当 法定福利費 退職給付費用 支払手数料 減価償却費 租税公課 貸倒引当金繰入 支払利息 固定資産売却損 法人税等 当期純利益	収益 売上高 受取手数料 受取利息 受取配当金 有価証券利息 固定資産売却益
努力	成果
一定期間における経営成績を示す	

3

簿記の仕組み

① 勘定科目

5

簿記の目的を達成するために、日々の取引を記録し、貸借対照表と損益計算書を作成する。

取引が発生したら、資産、負債、純資産、収益、費用の増減額を把握する必要がある。

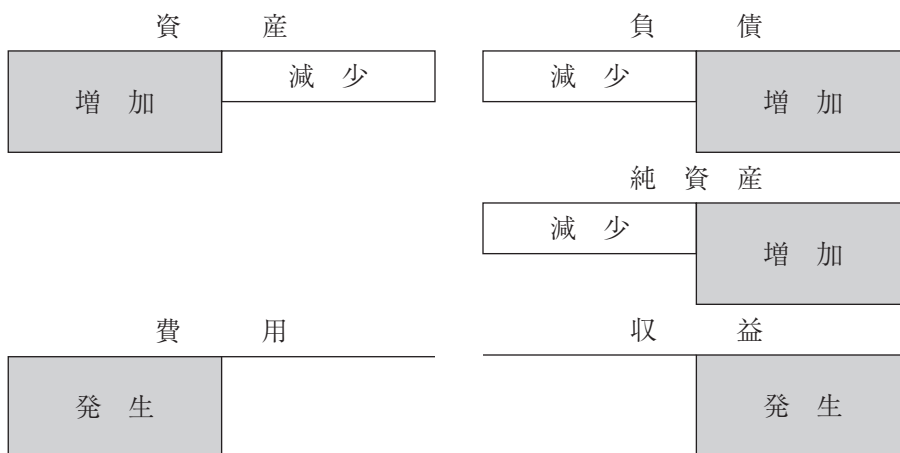
その際、使用するのが勘定科目になり、貸借対照表における資産、負債及び純資産と損益計算書における収益、費用を、具体的な名称で示す。

10

② 勘定科目の増減

- (1) 資産の勘定科目：増加は借方、減少は貸方に記入
- (2) 負債の勘定科目：増加は貸方、減少は借方に記入
- (3) 純資産（資本金など）の勘定科目：増加は貸方、減少は借方に記入
- (4) 費用の勘定科目：発生は借方に記入
- (5) 収益の勘定科目：発生は貸方に記入

15



20

25

30

③ 仕 訳

企業活動により生じた一つの事象を、原因と結果の二つの側面から記録を行うのが複式簿記である。簿記上の取引が生じたら、どの勘定に、いくら記録するかを決め、帳簿に記入することが仕訳であり、個々の取引については借方の金額と貸方の金額は等しくなる。

④ 転 記

取引が発生すると仕訳を行う。この仕訳に基づいて総勘定元帳に記入する。この記入のことを転記という。総勘定元帳に転記を行う際には、各勘定口座に日付、相手勘定科目、金額を記入する。

注意点

仕訳を行った際、相手科目が複数の場合には、総勘定元帳の相手科目欄に諸口と記入する。

<前提>

取引：3月4日に商品100円を売上げ、30円を現金で受取り、残りは掛けとした。

↓

仕訳：3/4	(現	金)	30	(売	上)	100
↓	(売	金)	70			
元帳：						

現	金	売	上
3/4 売 上 30			3/4 諸 口 100
売 掛 金			
3/4 売 上 70			

⑤ 集 計

仕訳に基づいて総勘定元帳に記入された勘定を一覧表に集計する。この一覧表のことを試算表という。なお、ここでは残高試算表を確認する。残高試算表とは、各勘定口座の借方残高と貸方残高を集計し、一覧表にまとめたものをいう。



すべての取引は、借方の金額と貸方の金額が等しくなるように仕訳がされ、勘定に転記される。

したがって、正しく記帳が行われていれば、すべての勘定の借方金額の合計額と貸方金額の合計額は一致する。試算表は、仕訳から勘定への転記が正しく行われているかどうかを検証するために作成される。

また、作成時期は、決算整理の前後に作成されるケースが多い。

設例 1

次の資料に基づき、仕訳、総勘定元帳及び残高試算表を答えなさい。

<資料>

- 5月1日に現金30,000円を借り入れた。
- 8月31日に受取手数料15,000円を現金にて受取った。
- 11月25日に給料4,000円を現金にて支払った。

解 答

5/1 (現金)	30,000	(借入金)	30,000
8/31 (現金)	15,000	(受取手数料)	15,000
11/25 (給料)	4,000	(現金)	4,000
現金		借入金	
4/1 前期繰越	50,000	5/1 現金	30,000
5/1 借入金	30,000		
8/31 受取手数料	15,000		
11/25 給料	4,000		
給料		受取手数料	
11/25 現金	4,000	8/31 現金	15,000

残 高 試 算 表			(単位：円)
借 方	勘 定 科 目	貸 方	
91,000	現金		
	借入金	30,000	
	資本金	40,000	
	繰越利益剰余金	10,000	
	受取手数料	15,000	
4,000	給料		
95,000		95,000	

解 説

1. 借 方 ← 現金（資産）が30,000円増加（結果）
借入金（負債）が30,000円増加（原因） → 貸 方
2. 借 方 ← 現金（資産）が15,000円増加（結果）
受取手数料（収益）が15,000円発生（原因） → 貸 方
3. 借 方 ← 給料（費用）が4,000円発生（原因）
現金（資産）が4,000円減少（結果） → 貸 方

注 意 点

残高試算表について、問題上は下記のように示されることが多い。

残 高 試 算 表				(単位：円)
現 金	91,000	借 入 金	30,000	
給 料	4,000	資 本 金	40,000	
		繰越利益剰余金	10,000	
		受 取 手 数 料	15,000	
	95,000		95,000	

参 考 勘定科目の分類

(現 金) 30,000

←資産→



勘定科目が資産、負債、純資産、収益、費用のどの項目に該当するかを示すものであるため、仕訳の解答を行う際には記載しなくて良い。

設例 2

次の総勘定元帳に基づき、それぞれの日付における仕訳を答えなさい。

<資料>

現				金				
5 / 1	借	入	金	30,000	11/25	給	料	4,000
8 / 31	受	取	手 数 料	15,000				
借				入				金
					5 / 1	現	金	30,000
受				取				手 数 料
					8 / 31	現	金	15,000
給				料				
11/25	現	金	4,000					

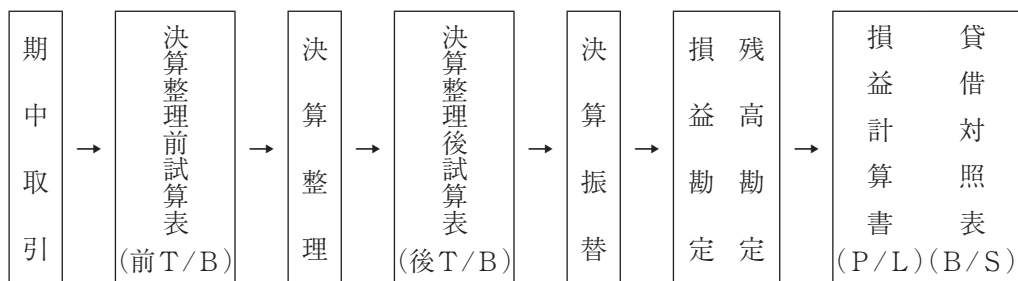
解 答

5 / 1 (現	金)	30,000	(借	入	金)	30,000
8 / 31 (現	金)	15,000	(受	取	手	数
11/25 (給	料)	4,000	(現	金)	4,000	

4 決算

① 概要

決算とは、期末に一会計期間の帳簿記録を整理して、その期間の経営成績と期末の財政状態を明らかにするための手続きをいう。



② 決算整理前試算表

決算整理前試算表とは、決算整理の前の段階で総勘定元帳におけるすべての勘定を集計した一覧表をいう。

③ 決算整理

決算整理とは、期中の取引が記帳されている総勘定元帳の各勘定の残高に、一定の修正を加える手続きをいう。決算において単に総勘定元帳を集計して試算表を作成するだけでは、企業の適正な経営成績及び財政状態を示す資料にはならない。そこで決算日時点で資産、負債及び純資産、収益や費用の金額を修正する決算整理が必要になる。

具体的には以下の事項を処理する。

(1) 未処理の修正

期中に取引の事実が生じているが、仕訳が行われていない場合、決算整理前試算表には適正な金額が計上されていない。そのため、決算整理によって正しい仕訳を行う必要がある。

(2) 誤処理の修正

期中取引において誤った処理が行われている場合、決算整理前試算表には適正な金額が計上されていない。そのため、決算整理によって修正の仕訳を行うことが必要となる。

(3) 決算整理事項

決算整理事項は決算において決算整理を必要とする事項をいう。

決算整理事項として、有形固定資産の決算整理（減価償却）等がある。

④ 決算整理後試算表

決算整理後試算表とは、決算整理の後の段階で、総勘定元帳におけるすべての勘定を集計した一覧表をいう。

5

⑤ 決算振替

決算振替とは、損益振替、利益振替及び残高振替の3つの振替手続のことをいう。

⑥ 損益計算書及び貸借対照表

損益計算書及び貸借対照表とは、決算の結果である経営成績や財政状態を報告するための正式な報告書をいう。

10

15

20

25

30

設 例

下記に示す＜資料１＞決算整理前残高試算表及び＜資料２＞決算整理事項に基づき、仕訳、総勘定元帳、決算整理後残高試算表を答えなさい。なお、決算日は3月31日である。

＜資料１＞ 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表 (単位：円)

借 方	勘 定 科 目	貸 方
91,000	現 金	
	借 入 金	30,000
	資 本 金	40,000
	繰 越 利 益 剰 余 金	10,000
	受 取 手 数 料	15,000
4,000	給 料	
95,000		95,000

＜資料２＞ 決算整理事項

1. 備品10,000円を購入し、現金を支払ったが未処理であった。
2. 給料1,000円を現金で支払ったが、100円で記帳を行っていた。
3. 受取手数料500円を現金で受取った際に、下記のように仕訳を行っていた。

(受 取 手 数 料) 500 (現 金) 500

解 答

1. (備 品) 10,000 (現 金) 10,000
－資産－
2. (給 料) 900 (現 金) 900
－費用－
3. (現 金) 1,000 (受 取 手 数 料) 1,000
－資産－

現 金				借 入 金			
前T/B	91,000	3/31 備 品	10,000		前T/B	30,000	
3/31 受 取 手数料	1,000	〃 給 料	900				
備 品				資 本 金			
3/31 現 金	10,000				前T/B	40,000	
				繰越利益剰余金			
					前T/B	10,000	
給 料				受 取 手 数 料			
前T/B	4,000				前T/B	15,000	
3/31 現 金	900				3/31 現 金	1,000	

決算整理後残高試算表 (単位：円)

借 方	勘 定 科 目	貸 方
81,100	現 金	
10,000	備 品	
	借 入 金	30,000
	資 本 金	40,000
	繰 越 利 益 剰 余 金	10,000
	受 取 手 数 料	16,000
4,900	給 料	
96,000		96,000

解 説

修正仕訳の考え方は以下のとおりである。

- (1) 会社が行った仕訳を考える。
- (2) 正しい仕訳を考える。
- (3) (1)、(2)をもとに修正仕訳を考える。

2. 給料支払い時の修正

- (1) 会社仕訳

(給 料) 100 (現 金) 100

- (2) 正しい仕訳

(給 料) 1,000 (現 金) 1,000

- (3) 修正仕訳

(給 料) 900 (現 金) 900

3. 受取手数料の修正

- (1) 会社仕訳

(受 取 手 数 料) 500 (現 金) 500

- (2) 正しい仕訳

(現 金) 500 (受 取 手 数 料) 500

- (3) 修正仕訳

(現 金) 1,000 (受 取 手 数 料) 1,000